

NPO法人メッシュ・サポートは沖縄県本島北部地域にてヘリコプターを活用した医療活動に取り組んでいます。



民間救急ヘリ メッシュ・サポート通信 2015年6月号

2015年5月の救急活動実績 計27件(累計954件)

国頭村5件, 東村1件, 大宜味村1件, 伊江村14件(うち医師派遣5件),
伊是名村1件, 名護市2件, (うち医療物資搬送1件) 大宜味村2件, 東村2件

飛行機事業へのご支援ありがとうございました。



総額¥36,291,000- 目標支援額達成！！

クラウドファンディングサイト「Ready for?」から支援して下さった445名の皆様
23件の県内企業・団体様

(沖縄セルラー電話様、卸商業団地協同組合様、野毛病院様、JA労働組合様、メイクマン様、ブルーオーシャンズ様、
金秀本社様、ライオンズクラブ様、ダイコー沖縄様、伊江貨物様、きたいクリニック様、新地開発様、募金箱設置協力店様)
情報拡散に御協力して下さったすべての皆様へ 誠にありがとうございました。



認定NPO法人メッシュ・サポート理事長の小濱正博です。これまで当法人は沖縄県本島北部地域の僻地・離島にて、多くの方々からの支援を託していただき、航空医療による医療環境の改善に取り組んでまいりました。同様の医療問題を抱える幾多の島々において、医療用飛行機の導入は最善の改善策であると信じています。しかし、この度のプロジェクトは前例がなく、かつ高い目標であったため、厳しい取組みとなりましたが、多くの応援と当法人の活動に期待し、ご支援をいただいた皆様のおかげで目標を達成することができました。この先、皆様から託していただいた医療用飛行機を推進していく過程でも、乗り越えていかなければならない壁があると思いますが、当法人は『航空機を活用した救命活動』と『航空医療の啓蒙推進』のために邁進していく所存です。今後とも応援の程、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

メッシュヘリ活動資金状況

保有残高:約593万円。約1月間(2015年6月下旬まで)の運航が可能です。

メッシュ救急ヘリの運営には月額約750万円の活動資金が必要です。(公的ドクターヘリ予算の約1/3にて運営)
費用内訳:機体リース料15%,機体維持費10%,施設維持費5%,燃料費5%,運航スタッフ費用50%(35%は委託),法人運営費15%

年間活動費9,000万円 2016年3月末迄に6,907万円が必要です。

寄附・会費の銀行振込

琉球銀行	名護支店	(普)	793542
沖縄銀行	名護支店	(普)	1625737
沖縄海邦銀行	名護支店	(普)	0662317
ゆうちょ銀行	01770-5-135567		

名義は「メッシュ・サポート又は トクヒ)メッシュ・サポート」

公式フェイスブック



活動情報と動画を配信しています。「いいね!」を押してより多くの方々へのPRにご協力ください。

お問合せはメッシュサポート事務局まで TEL0980-54-1006 平日9:00~17:00

民間救急に協力呼び掛け

へりで沖縄搬送の継続を

知名町の池さん

【沖水良部徳洲会病院】知名町の沖水良部徳洲会病院に入院する池源誠さん（47）はこのほど、沖縄での手術が必要となり、沖縄県内で救急へりを運営する認定NPO法人メッシュ・サポート（理事長・小濱正博北部地区医師会病院副院長）に依頼し、特別に搬送された。池さんは常に人工呼吸器を装着しており、今後も緊急時は同へりの利用を希望しているが、本来の活動区域外であり、財政的な理由からも運航継続は難しいという。池さんと家族、病院などの関係者は「運航継続のため、鹿児島県の人々にも同法人の活動を知ってもらい、協力を呼び掛けたい」としている。

沖縄本島北部地域を中心に活動している。県外からの搬送は今月初めてで、塚本裕樹事務局長は「沖水良部島までは物理的に飛ぶことはできるが、エリア外での活動継続は厳しい状況。鹿児島の方からも協力いただければ活動もしやすくなる」と話した。

池さんは「自分で運賃を出しても運航を続けてほしいが、それだけでは難しい。皆さんに協力してほしい」。母・美代子さん（72）は「息子は事故

で、池さんのように慢性期の方は搬送できない基準がある。池さん以外にも、ドクターへりの出動基準外でへり搬送を必要とする患者はいる。病院としても運航継続をお願いしたい」と力を込めた。

後しばらくは落ち込んでいたが、周囲の励ましや島の同級生らの支えで今がある。できればこのまま、島で生活できるようにしてあげたい」と周囲への感謝

と息子への思いを語り、協力を求めた。寄付・協力に関する問い合わせは電話0980（54）1006 同法人事務局へ。

池さんは高校3年の時、交通事故で頸椎を損傷。四肢まひや呼吸機能低下などの後遺症で、29年間入院生活を送っている。膀胱留置カテーテルを入れていたため、膀胱結石を発症しやすく、当初は10年に1回だったが、4～5年に1回、最近では半年に1回と発症頻度が高くなっている。

今回は昨年12月に発症。島内には手術に使用する医療機器がなく、これまでは発症するたびに、病院スタッフの移動に利用している。小型機を使って沖縄へ行っていったが、同小型機の機種変更でストレッチャーを載せることができなかった。病院は沖縄のドクターへりに池さんの搬送を要請したが、出動基準外のため断られたという。以前一度だけ利用した船は、搬送に長時間を要し、池さんの体への負担が大きい。遅延や欠航などにより酸素が不足する恐れもあり断念した。あらゆる手段を調べ尽くし、同法人にたどり着いた。同法人は2007年6月に設立。同年10月



民間救急へり運航継続への協力を呼び掛ける池源誠さん(左)と母・美代子さん＝知名町の沖水良部徳洲会病院

に日本で初めての民間救急へりとして厚労省ドクターへりと同様の運航が認められた。運営費は県内の個人、団体からの寄付で賄い、